

〔ウメ早期成園化技術の実証（受託研究）〕

ウメ樹体ジョイント仕立て収穫2年目（定植4年目）の収量と果実品質

杉田交啓・山内佑紀

（園芸技術科）

【要約】ウメ樹体ジョイント仕立て収穫2年目の収量は、天候の影響で1年目より減少するが、大玉の収穫割合は大きくなる。ジョイント「梅郷」果実は、平均果重が大きく、核重率も低い。

【目的】

ウメジョイント仕立て（以下、ジョイント）による早期成園化技術を実証するため、昨年度は収穫1年目（定植3年目）の収量および果実品質を評価した。今年度も引き続き、収穫2年目（定植4年目）の収量および果実品質を評価する。

【方法】

1. 所内沖積土圃場雨よけネットハウスに2015年に定植したジョイント仕立て「南高、梅郷、玉英」各2ユニット（5本組/1ユニット）、一文字仕立て「南高、梅郷」各2樹、慣行仕立て（3本主枝杯状型整枝）「南高、梅郷、玉英」各2樹を用いた（6年生、定植4年目）。
2. 2018年2月8日より開花状況にあわせ、適宜人工授粉を行った（花粉「玉織姫」、群馬農技セより2016年譲受）。
3. 5月29日に樹上果実を一斉収穫し（図1）、大きさにより分類し（表1）、収量および果実品質を調査した。

【成果の概要】

1. 収量：ジョイントおよび一文字で収穫1年目より収量は減少した（図2）。開花時期の2月上中旬の気温が平年よりも1℃程度低く（データ省略）、受粉に影響したことが考えられる。「梅郷」は収量が特に少なく、5月中旬より生理落果もみられた。収穫前の4月から5月にかけては、平年よりも気温が高く、日照時間も長かったことにより、枝葉との養分競合がおこったと考えられる。収量は低下したが、大玉（3L、2L）の割合は多くなった。
2. 果実品質：収穫2年目の果実の酸度に大きな差はなかった（表2）。平均果重は、ジョイントおよび一文字ともに「梅郷」が大きく、核重率も低かった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. ネットハウス内で人工授粉した場合の収量である。
2. ジョイント収穫3年目以降も継続して調査する。



図1 ウメジョイントの結実状況（左：「南高」、右：「梅郷」）

表1 ウメ果実の選別基準

階級	1果の基準果実径	1果平均果実重	10kgの平均果実数
3 L	4.1cm以上	35g	300果
2 L	3.7cm以上～4.1cm未満	25g	420果
L	3.3cm以上～3.7cm未満	20g	525果
M	3.3cm未満	15g	700果

注) 和歌山県青梅出荷基準参考

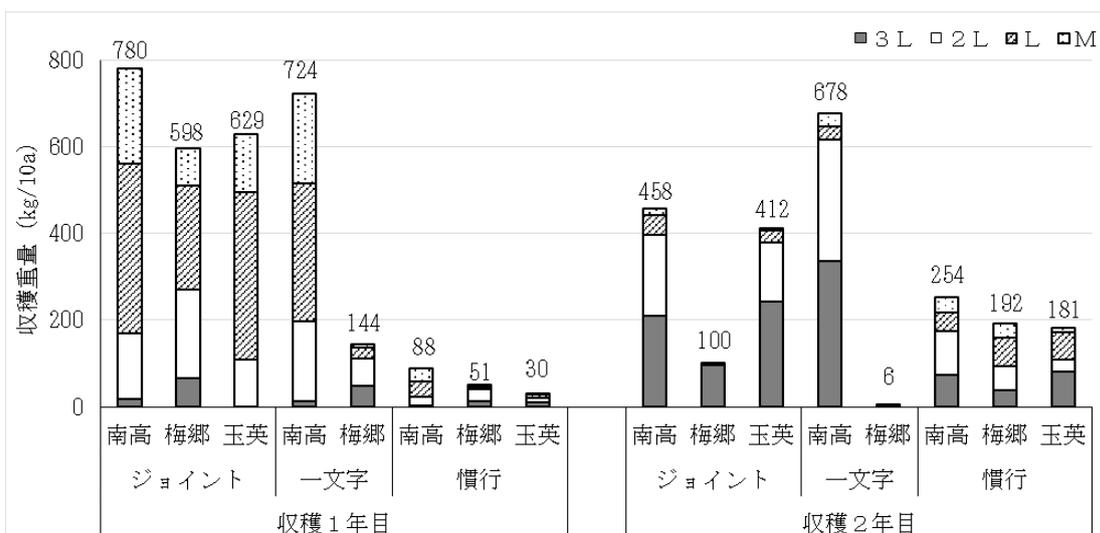


図2 収穫2年目までの階級別収穫果実重量

注) 実数は品種ごとの総収量 (kg/10a)

収穫日：収穫1年目（2017年6月8日）、収穫2年目（2018年5月29日）

表2 仕立て方法および品種の違いが収穫2年目のウメ果実品質に及ぼす影響

		平均果重 (g)				全果	酸度 ^z (%)	核重率 ^y (%)	秀品率 ^x (%)
		3 L	2 L	L	M				
ジョイント	南高	31.8	23.5	18.3	16.6	27.7	2.80	10.7	88.7
	梅郷	36.6	25.8	19.0	—	35.9	2.46	7.0	93.8
	玉英	28.1	22.8	21.3	16.6	25.4	2.27	9.4	81.0
一文字	南高	28.2	22.4	18.6	15.9	24.2	2.75	11.7	79.8
	梅郷	31.5	—	—	—	31.5	2.87	6.8	88.9
慣行	南高	29.6	23.0	19.9	15.8	22.4	2.55	11.8	85.3
	梅郷	31.2	23.4	19.2	15.7	21.9	3.00	6.1	87.9
	玉英	32.6	23.2	19.2	15.7	26.7	2.43	9.6	86.6

z) クエン酸換算値

y) 果実重に占める核の重さの割合

x) 下物はヤニ果、虫害果など